

令和3年度事業報告

第1 はじめに

令和2年初頭から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、社会生活に大きなダメージを与えており、令和3年度も第4波、第5波、第6波と感染拡大が繰り返され、現在もオミクロン変異株の流行のただ中にある。令和3年度はワクチン接種が進み、重症化リスクが一定程度改善されたものの、依然として、感染の不安はもとより、経済的な不安を抱えるかたが多く、生活上の課題も多岐にわたり、人や地域のつながりの低下が顕在化してきている。

目黒区社会福祉協議会（以下「社協」という。）では、令和3年度以降も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減収となったかたを対象とする緊急小口資金や総合支援資金の特例貸付がさらに延長されたことに伴う対応や、毎月第4日曜日の休日窓口開設など、目黒区の関係所管と連携しながら、生活上の課題への対応に社協事務局全体で取り組んでいる。

新型コロナウイルスの感染拡大により、地域を支える各種事業は実施に当たり著しい支障が生じており、社協が行う講習会や研修会などの事業についても、令和2年度に引き続き、中止や延期、規模の縮小などの影響を受けた。

一方で、新型コロナウイルスの感染拡大の流行開始から1年余を経過したこれまでの経験・知見等を踏まえ、事業実施にさまざまな工夫をしてきている。民生児童委員やボランティア、町会・自治会、住区住民会議、関係団体など多くの方々の理解と協力を得つつ、社協事務局のインターネット活用によるリモート環境の充実も図り、工夫を重ねながら、社協の各事業を可能な限り実施した。

令和2年度に中止せざるを得なかった対面型のイベント「地域福祉のつどい」についても、昨年度は、オンライン参加型イベントの実施、特設ホームページによる団体の活動紹介など、新たな形式で開催した。

社協の理事会・評議員会については、新型コロナウイルス感染症拡大に対応するための三密の回避や、より活発な意見交換を進めるため人数の見直しを行い、審議等をより活発に行う体制を整備した。

令和4年度は、社協が行う福祉活動について、発展・強化させていく方向性を示し、今後5年間の社協の事業計画と経営上の取組をまとめた「第四次目黒区社協発展・強化計画（令和4年度～8年度）」の初年度となる。第四次計画では、特に、個別課題の支援から地域に共通する課題を引き出し、住民とともに新たな支援の仕組みを創り出していくコミュニティソーシャルワークの推進に社協組織全体として取り組むと同時に、既存事業の充実・強化を幅広く図っていく。

また、令和3年度から社協に配置されたコミュニティ・ソーシャルワーカー（Community Social Worker：略称「CSW」。以下、全頁にわたりCSWと表記。）の体制を拡充し、地域の支え合い体制整備事業との連携により、福祉の地域づくりを充実させていく。

第2 重点的な取組

1 成年後見制度の拡充

目黒区の成年後見制度推進機関として、認知症高齢者や単身高齢世帯が増加する中で、成年後見制度の果たすべき役割や需要の増大が見込まれており、新型コロナウイルス感染症が拡大する中でもオンラインによる講演会の開催や弁護士等による専門相談、第三者の後見人等を希望されるかたへの専門家の紹介等を通じ、成年後見制度の周知と制度利用の支援に取り組んだ。親族や専門家の後見人を依頼することが困難な区民については、社協が後見人等を法人として積極的に受任し、その後の状況に応じて市民後見人につなげ、社協は後見監督人等として継続的な支援を行った。令和2年度からはエンディングサポート事業の一環として、オンラインによる講演会、令和3年度からは弁護士・司法書士による相談会も実施し、目黒区と連携・協力して一層の利用促進に努めた。

2 生活支援・CSW体制整備事業の推進

高齢化の進展により生活支援が必要な高齢者が増える中、生活支援サービスの充実・強化が求められ、地域の実状に応じた多様な主体による「支え合いの仕組み」を広げることが重要となっている。

社協は、平成29年度から高齢者の地域での生活を支える体制づくりについて、目黒区からの委託を受けて担当の生活支援コーディネーターを配置し、町会・自治会や民生児童委員、老人クラブ、NPO、ボランティア団体、事業者等の参加のもと、地域の生活課題や不足する支援サービス、支え手の開拓などについて話し合う場、情報共有や連携強化の場として、5地区ごとに第2層の「協議体」を順次立ち上げ、運営してきた。

地域福祉推進の中核的な役割を担う社協は、地域におけるさまざまな生活課題の把握に努め、住民の相互援助活動や支え合いの仕組みづくり、地域活動団体・ボランティア活動者等とのつながりを充実させ、引き続き地域と協働して生活課題の解決を目指していく。

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により例年のような会議やイベント等が開催できなかつたため、オンラインを取り入れた会議や座談会を開催した。

《地域共生社会の実現に向けた新たな取組》

地域には、いわゆるダブルケアや8050問題等のように複合的な課題を抱える世帯など、従来の公的な支援制度だけでは対応できない生活課題や制度の狭間で困窮する人が増加している。特に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、地域の見守りや居場所への参加が困難になり、社会的孤立やひきこもりなど、地域住民が抱える課題はますます複雑化・深刻化している。このような地域の課題に対応するため、住民と共に課題解決に取り組む、個別支援、資源開発や地域の仕組みづくりを進めるCSWの役割と体制整備が重要となる。

目黒区と社協は、このCSW体制整備の必要性を共通認識し、令和3年度から、目黒区からの委託を受け、目黒区が設定した年次計画に基づいて社協にCSWを順次配

置することとし、生活支援コーディネーターと連携協力して活動するCSW体制整備に取り組んでいる。

令和3年度は、目黒区や関係機関・団体と連携して、地域のさまざまな困りごとに対する相談支援や地域活動への支援を推進していくため、CSWの周知活動や情報交換に取り組み、これまで地域のささえあい情報として発行していた広報誌をリニューアルした。また、ひきこもり当事者の家族支援のため、ひきこもり当事者の家族を対象とした学習会を開催するとともに、家族会の立ち上げを支援した。

3 障害福祉サービス事業の充実

幅広く地域福祉を推進するために、高齢者・児童福祉に係る事業に加え、平成29年度から社協が東京都の指定を受けた「障害福祉サービスセンター」を開設し、居宅介護、重度訪問介護、同行援護及び移動支援等の障害福祉サービスを、目黒区から引き継いで実施している。

これらの事業のうち視覚障害者等を対象とする同行援護については、対応可能な資格者が限られるため、資格取得助成制度を設けて資格者の養成に取り組むとともに、平成30年度からは全ての資格取得に助成対象を拡大し、サービス提供者の人材確保と円滑な事業運営に努めてきた。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しつつ、前年度に比べサービス提供回数の実績増となった。特に居宅介護において利用者の通院等介助での利用が増加した。今後も、新型コロナウイルス感染症予防対策を図りながら、利用者の社会参加や活動範囲の拡充につながるよう、さまざまな事業運営上の課題解決を図っていく。

第3 事業概要

I 社会福祉事業

1 法人運営事業

(1) 法人運営の充実

理事会・評議員会等における議案審議を踏まえ円滑な法人運営に努めた。開催方法については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う国・都の動向を見据えながら、書面による同意をもって決議するなど、状況に応じて適正に開催した。

(理事会の開催状況)

開催	議案等
第1回 ※ 令和3年 4月1日	議案第1号 常務理事の選定
第2回 ※ 令和3年 6月9日	議案第1号 令和2年度 事業報告及び決算の承認 議案第2号 令和3年度 社会福祉事業補正予算（第1号）の同意 議案第3号 令和3年度 公益事業補正予算（第1号）の同意 議案第4号 評議員会に係る提案書 議案第5号 理事候補者の決定 議案第6号 監事候補者の決定 議案第7号 顧問及び参与の委嘱の承認 報告第1号 職務執行状況報告（令和2年12月1日から令和3年3月31日まで） 報告第2号 第三次目黒区社協発展・強化計画の取組状況報告（令和2年度） 報告第3号 第四次目黒区社協発展・強化計画策定の取り組みについて 報告第4号 共同募金会目黒区配分推薦委員会に係るスケジュール
第3回 令和3年 6月28日	議案第1号 会長の選定 議案第2号 副会長の選定 議案第3号 常務理事の選定 議案第4号 評議員選任・解任委員会委員の選任 議案第5号 評議員選任・解任委員会に係る提案書 議案第6号 評議員候補者の推薦 議案第7号 顧問・参与の委嘱の承認 報告第1号 第四次目黒区社協発展・強化計画策定方針について
第4回 ※ 令和3年 9月30日	議案第1号 事務局長の選任 議案第2号 理事候補者の決定 議案第3号 評議員会に係る提案書
第5回 ※ 令和3年 10月1日	議案第1号 常務理事の選定

開 催	議 案 等	
第 6 回 令和 3 年 10 月 7 日	議案第 1 号 議案第 2 号 議案第 3 号 議案第 4 号 議案第 5 号 報告第 1 号 報告第 2 号 報告第 3 号 報告第 4 号	令和 3 年度 社会福祉事業補正予算（第 2 号）の同意 第 3 回評議員会の招集 社会福祉法人目黒区社会福祉協議会職員就業規則の一部改正 社会福祉法人目黒区社会福祉協議会職員就業規則第 5 条第 2 項の規定に基づき採用した職員の就業・給与及び退職手当の特例に関する規則の一部改正 令和 3 年度 歳末たすけあい・地域福祉募金実施計画の同意 評議員の選任結果 職務執行状況報告（令和 3 年 4 月 1 日から 7 月 31 日まで） 第四次目黒区社協発展・強化計画策定に係る検討状況について 「第 18 回 めぐる地域福祉のつどい」の開催について
第 7 回 ※ 令和 3 年 10 月 19 日	議案第 1 号 議案第 2 号	理事候補者の決定 第 3 回評議員会における決議事項の追加
第 8 回 ※ 令和 4 年 2 月 8 日	議案第 1 号 議案第 2 号 議案第 3 号 議案第 4 号 議案第 5 号 報告第 1 号 報告第 2 号 報告第 3 号	遺贈による寄附収入の地域福祉基金への積立 令和 3 年度 社会福祉事業補正予算（第 3 号）の同意 令和 3 年度 公益事業補正予算（第 2 号）の同意 令和 3 年度 収益事業補正予算（第 1 号）の同意 評議員会に係る提案書 職務執行状況報告（令和 3 年 8 月 1 日から 11 月 30 日まで） 目黒区社協発展・強化計画 第四次計画素案について 歳末たすけあい地域福祉募金の実施結果と配分計画の変更及び赤い羽根共同募金地域配分（B 配分）の配分推薦結果
第 9 回 ※ 令和 4 年 3 月 17 日	議案第 1 号 議案第 2 号 議案第 3 号 議案第 4 号 議案第 5 号 議案第 6 号 議案第 7 号 議案第 8 号 議案第 9 号	令和 3 年度 社会福祉事業補正予算（第 4 号）の同意 令和 3 年度 公益事業補正予算（第 3 号）の同意 令和 3 年度 収益事業補正予算（第 2 号）の同意 処務規則の一部改正 令和 4 年度 会員募集計画の同意 基金活用事業計画の改定 令和 4 年度 事業計画及び予算の同意 目黒区社協発展・強化計画第四次計画の同意 第 5 回評議員会に係る提案書

※ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和 3 年度第 1 回～第 2 回、第 4 回～第 5 回、第 7 回～第 9 回理事会は、定款第 33 条第 2 項の規定に基づく書面による同意をもって決議した。

(評議員会の開催状況)

開催	議案等	
第1回 ※ 令和3年 6月28日	議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 報告第1号 報告第2号 報告第3号 報告第4号	令和2年度 事業報告及び決算の承認 令和3年度 社会福祉事業補正予算（第1号）の承認 令和3年度 公益事業補正予算（第1号）の承認 理事の選任 監事の選任 職務執行状況報告（令和2年12月1日から令和3年3月31日まで） 第三次目黒区社協発展・強化計画の取組状況報告（令和2年度） 第四次目黒区社協発展・強化計画策定方針について 共同募金会目黒区配分推薦委員会に係るスケジュール
第2回 ※ 令和3年 10月1日	議案第1号 報告第1号	理事の選任 事務局長の選任結果
第3回 令和3年 10月27日	議案第1号 議案第2号 議案第3号 報告第1号 報告第2号 報告第3号 報告第4号	令和3年度 社会福祉事業補正予算（第2号）の承認 理事の選任 令和3年度 歳末たすけあい・地域福祉募金実施計画の承認 社会福祉法人目黒区社会福祉協議会職員就業規則の一部改正 社会福祉法人目黒区社会福祉協議会職員就業規則第5条第2項の規定に基づき採用した職員の就業・給与及び退職手当の特例に関する規則の一部改正 職務執行状況報告（令和3年4月1日から7月31日まで） 「第18回 めぐる地域福祉のつどい」の開催について
第4回 ※ 令和4年 2月18日	議案第1号 議案第2号 議案第3号 報告第1号 報告第2号 報告第3号 報告第4号	令和3年度 社会福祉事業補正予算（第3号）の承認 令和3年度 公益事業補正予算（第2号）の承認 令和3年度 収益事業補正予算（第1号）の承認 遺贈による寄附収入の地域福祉基金への積立 職務執行状況報告（令和3年8月1日から11月30日まで） 目黒区社協発展・強化計画 第四次計画素案について 歳末たすけあい・地域福祉募金の実施結果と配分計画の変更及び赤い羽根共同募金地域配分（B配分）の配分推薦結果
第5回 ※ 令和4年 3月30日	議案第1号 議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号 議案第6号 議案第7号 報告第1号	令和3年度 社会福祉事業補正予算（第4号）の承認 令和3年度 公益事業補正予算（第3号）の承認 令和3年度 収益事業補正予算（第2号）の承認 令和4年度 会員募集計画の承認 基金活用事業計画の承認 令和4年度 事業計画及び予算の承認 目黒区社協発展・強化計画第四次計画の承認 処務規則の一部改正

※ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和3年度第1回～第2回及び第4回～第5回評議員会は、定款第15条第4項の規定に基づく書面による同意をもって決議した。

(評議員選任・解任委員会の開催状況)

開催	議案等
第1回 ※ 令和3年 6月28日	議案第1号 評議員の選任

※ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和3年度第1回評議員選任・解任委員会は、評議員選任・解任委員会運営規程第11条第2項の規定に基づく書面による同意をもって決議した。

(2) 社協会員の募集及び会費納入実績

各町会・自治会、民生児童委員、各福祉関係団体等からの協力を得て、会員会費制度の維持に努めている。令和3年度は、チラシによる会員募集、職員の名刺裏面に会員募集メッセージを記載するとともに、めぐろ社協だよりに社協会費納入払込用紙を刷り込むなどの工夫のほか、区内法人の協力により会員に対して社協会員募集を行ったが、会費納入件数、納入金額ともに微減となった。

(会費納入件数・金額)

3年度		2年度	
1,038件	4,239,000円	1,070件	4,330,500円

(3) 寄付

個人・団体から寄付金を受領し、社協が実施する地域福祉事業へ活用した。令和3年度は遺贈による高額寄付があったため、金額が大幅に増となった。また昨年度中止した「めぐろ地域福祉のつどい」をオンラインで開催し、協賛金も集まったため、件数も増加した。

(寄付件数・金額)

3年度		2年度	
108件	42,939,332円	56件 (他に物品寄付1件)	3,167,530円 [物品寄付(マスク2,000枚) は含まない。]

(4) 普及啓発

ア 広報紙の発行及びホームページの運営

「めぐろ社協だより」をはじめ各事業別の広報紙を発行した。社協だより(全号をカラー刷り)には、引き続き有料広告を掲載したほか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止・縮小して取り組んだ地域活動を積極的に紹介した。

ホームページでは、生活福祉資金貸付制度の情報を変更の都度発信するなど、タイムリーな情報発信に努めた。

(普及啓発の状況)

広報紙名	対象	発行回数	発行部数(配布方法)
めぐろ社協だより「てって」	区民	年4回 (6・9・11・2月)	各号75,400部 (新聞折込等)

令和2年度事業報告書	会員	年1回(7月)	3,055部 (郵送)
ボランティアめぐろ	区民 登録者	年12回 (毎月)	各号3,100部 (郵送・メール配信)
ボランティアめぐろ特別号	区民	年1回 (3月)	154,000部 (全戸配布)
在宅福祉サービスセンターだより	会員	年2回(5・12月)	各号1,000部 (郵送)
ファミリー・サポート・センターおたより	会員	年2回(5・12月)	1,200部 (郵送)
南部包括だより	区民	年3回 (4・7・2月)	累計4,200部 (手渡し等)
ホームページ	区民	随時情報更新	—
めぐろボランティア情報検索サイト	区民	毎月情報更新	—
フェイスブック	区民	随時情報更新	—
YouTubeチャンネル(社協チャンネル)	区民	随時情報更新	—

イ めぐろ地域福祉のつどい

めぐろ地域福祉のつどいは、区内ボランティアグループ、福祉関係施設・団体、企業等の参加のもと、目黒区・目黒区民生児童委員協議会との共催で例年10月に中目黒G Tにおいて開催している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年に引き続き会場での開催は中止となったが、オンラインを活用したイベントを企画し、地域活動団体の紹介のほか、区民が当日参加できるイベントを実施した。また、YouTubeチャンネル(社協チャンネル)を開設し、めぐろ地域福祉のつどいのPR等に活用した。

ウ 社協PR活動

次表のイベントに参加し、社協事業のPRを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でいずれも中止や縮小となった。各種イベントのほか多くの社協事業が中止・縮小となったため、地域がつながり続けるための社協や地域団体の取組を、社協だよりや社協ホームページを活用して紹介するなど、社協のPRに努めた。

(イベント)

イベント名	参加日	主催者	参加内容
民生児童委員活動普及啓発総合庁舎ロビー展示	5月10日～ 16日	目黒区民生児童委員協議会	社協事業紹介パンフレット等配布
民生委員・児童委員活動普及・啓発パレード	—	・東京都民生児童委員連合会 ・東京都	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止
第58回目黒区商工まつり(目黒リバーサイドフェスティバル)	—	・目黒区商工まつり運営委員会 ・目黒区	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で縮小開催されたが不参加

(5) 基金の運用

遺贈による寄付 1 件、4,113 万円余を地域福祉基金に組み入れるとともに、資金運用基準に基づき、安全性・収益性に留意し、効率的な基金の運用に努めた。

また、令和元年に策定した基金活用事業計画（令和元年度から令和 10 年度まで、地域福祉基金から毎年度 500 万円を取崩し、在宅福祉サービス事業及びボランティア・区民活動推進事業の事業費の一部として有効活用を図る。）の 3 年目として、地域福祉基金を活用した。

(基金の状況)

(単位：円)

基金名	2 年度末 残高	3 年度末				
		利子	事業費充当	組入	取崩	残高
地域福祉基金	201,211,173	751,959	751,959	41,130,156	5,000,000	237,341,329
藤原福祉基金	79,456,658	147,294	147,294	0	0	79,456,658
河村福祉基金	19,793,893	27,542	27,542	0	0	19,793,893
はまなす福祉基金	13,067,498	17,404	17,404	0	0	13,067,498
坂東西福祉基金	18,740,328	107,466	107,466	0	0	18,740,328
ボランティア基金	15,639,607	18,871	18,871	0	0	15,639,607
わかたけ福祉基金	9,798,923	64,353	64,353	0	0	9,798,923
大倉福祉基金	16,689,459	23,194	23,194	0	0	16,689,459
計	374,397,539	1,158,083	1,158,083	0	5,000,000	410,527,695

(6) 社協発展・強化計画の推進

平成 29 年 3 月に策定した「第三次社協発展・強化計画」(平成 29 年度～33 年度)の最終年度を迎え、各事業の計画的な実施に努めた。また、令和 2 年度の進捗状況をまとめ、令和 3 年 6 月の定時評議員会で報告した。

また、令和 3 年度末をもって第三次計画の計画期間が終わることから、令和 4 年 3 月に「第四次社協発展・強化計画」(令和 4 年度～8 年度)を策定した。

第四次計画においては、これまでの計画の基本理念である「区民一人ひとりをお互いに大切に作る支え合いのまちづくり」を継承し、そのもとに 3 つの基本的視点及び基本目標を設定した。基本目標の実現に向けては、今後 5 年間で 2 つの「新規事業」を実施し、11 の「拡充事業」を展開することにより、区民の生活課題の解決や、区民が主体となった地域福祉活動の推進に努めることとした。

(7) 民間障害福祉施設職員健康相談事業

平成 29 年度から目黒区の補助を受け、産業医がいない民間障害福祉施設職員の健康確保やこころの健康づくりを支援するため、健康相談及びストレスチェック等を実施した。

事業内容	実施時期	実施方法
健康相談	月 1 回	産業医による面談

ストレスチェック	令和3年10月実施	民間検査機関へ委託
メンタルヘルス講習会	令和4年1月19日開催	目黒区保健師による講演

2 在宅福祉サービス事業

社協独自事業として、地域住民の参加と協力により、高齢者や障害者への家事・介護など生活に不可欠な支援や、話し相手・外出介助など生活に潤いをもたらす支援を行っている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用会員・協力会員ともに、本人や同居家族への感染不安から活動を休止する会員が一定数見られたものの、前年度に比べ依頼件数が微増した。

また、コロナ禍における新たな困りごとや地域の中で求められるサポートについて、会員や事業所に対しアンケート調査を行った結果、スマートフォンの操作やインターネット環境の整備、オンラインでの話し相手等の新たなニーズがあることが分かった。

(1) 会員登録状況

地区により各会員の登録数にばらつきがあるため、利用会員の希望する時間帯や内容の条件に合う協力会員の調整が難しく、離れた地区の会員を紹介することもあった。

	3年度	2年度
利用会員（年度利用実績）	127人	120人
協力会員（年度登録数）	152人	135人

(2) 在宅生活への支援

令和3年度は、前年度に比較し、回数・時間ともに増加した。とりわけ「話し相手」の利用回数が増加しており、コロナ禍で外出機会や人との交流が減少する中、活動を通じて行われる会員同士の会話は、貴重な住民同士の交流の場としての役割も果たしたと考えられる。

認知症や精神疾患、家庭環境など複合的な課題のある依頼については、地域包括支援センターやケアマネジャー、行政機関などと連携して支援した。

(サービス内容別の延利用回数)

		3年度	2年度
サービス内容別延利用回数	介護援助	453回	397回
	排泄・入浴・食事介助	27回	40回
	通院・外出介助	409回	341回
	その他	17回	16回
	家事援助	2,445回	1,902回
	掃除・洗濯	1,549回	1,200回
	買物・食事作り	250回	347回
	話し相手	424回	236回
	その他	222回	119回
	すっきりさせ隊	155回	111回

(活動状況)

	活動時間数	
	3年度	2年度
介護援助	1, 047.5時間	804.0時間
家事援助	2, 364.0時間	1, 822.5時間

(3) 困りごととお助けサービスの実施

他のサービスでは対応できない困りごとを対象としているため、依頼内容は個別性が高く多様化している。依頼内容の「その他」は、薬の受け取り、カーテンの取り替え、クリーニングの引き取りなど多岐に渡っている。短時間かつ単発で終了する困りごととお助けサービスのニーズは高く、他のサービス内容と比べ、件数が大きく増加した。

	3年度	2年度
相談件数	73件	49件
活動実績	52件	25件
依頼内容(延)	蛍光灯や電球の取替え (19件) 簡易な荷物・家具の移動(2件) 単発の家事代行 (1件) その他 (32件)	蛍光灯や電球の取替え (11件) 簡易な荷物・家具の移動(1件) 単発の家事代行 (0件) その他 (17件)

(4) 目黒区訪問型支え合い事業

要支援1・2の認定を受けたかた、または基本チェックリストにより事業対象者と判定されたかたに対し生活支援サービス(家事援助)の提供を行った。前年度に引き続き、令和3年度も担い手養成研修の開催を中止したため修了者は0人となった。

	3年度	2年度
利用者数	4人	4人
利用回数(延)	110回	148回
担い手養成研修修了者	0人	0人

(5) 研修会の開催

令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年よりも研修会の開催回数が少なかった。その中で、防災や心身の健康維持に関する社会的関心の高まりを受けて、「風呂敷防災」「涙活」をテーマに講座を開催した。また、前年度には開催できなかった、介護援助サービスを担える協力会員を確保するための実技を中心とした「車いす介助研修」を行った。

開催方法については、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、人数を制限した会場での開催やオンラインを活用した形式も取り入れた。

(研修会開催状況)

	テーマ【講師】	開催日	参加者数
① 協力会員交流会【対象：協力会員】			
	◎風呂敷防災講座と情報交換会 (集会・オンライン形式併用) 【日本風呂敷協会 名古屋支部 犬飼めぐみ氏】 風呂敷防災について学び防災への知識を深め、協力会員の意識啓発や知識向上を図る。また、活動についての報告、情報交換などを行う。	10月28日	11人
② 涙活講座【対象：利用会員、協力会員、一般区民】			
	◎涙活でストレス撃退！ストレスフリーな毎日を (集会・オンライン形式併用) 【感涙療法士 吉田英史氏】 意識的に涙を流すこと(涙活)を体験し、免疫力を上げ、心身共に健康に過ごす方法を学ぶ。	12月10日	22人
③ 車いす介助研修【対象：協力会員】			
	◎介護保険制度説明、介助のポイント実践例の紹介と 車いすなどの介助実技講習 【東京都理学療法士協会目黒支部 事務局長 山本奈津子氏】 実技を中心とした講習により、車いす操作や歩行介助方法を実践的に学ぶ。	12月21日	6人
			参加延人数
			39人

3 ハンディキャブ運行事業

公共交通機関(電車、バス、タクシーなど)を利用して外出することが困難な高齢者や障害者の社会参加を促進するため、地域住民(運転協力員)の協力を得てハンディキャブ(福祉車両)運行事業を実施している。年により登録者数、運行回数等の増減はあるが、令和3年度の運行回数は増加した。

前年度、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した運転協力員を対象とした安全運転講習会は、目黒警察署交通総務課職員を講師に招き、令和4年3月に実施した。

新たに運転協力員2人が就任したが2人が退任したため、引き続き運転協力員の確保が課題となっている。

(運行状況)

	3年度	2年度
利用登録者数	28人	33人
利用者数	28人	31人
運行回数	501回	414回
運転協力員登録者	8人	8人

4 ボランティア・区民活動推進事業

令和3年度は新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、少しずつ地域活動が始まった。センターの講座等では「ボランティアティーチャー養成講座」や「災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座」を開催し、今後のセンター事業に協力してもらえる人材を養成した。また、NPOやボランティア団体との共催講座を積極的に実施した。

(ボランティア・区民活動センターへの相談件数)

	3年度	2年度
ボランティア・区民活動	297件	487件
他機関の情報	69件	77件
寄付 ※1	270件	546件
貸出事業 ※2	217件	426件
保険関係	150件	338件
その他	230件	344件
計	1,233件	2,218件

※1 リサイクル、紙おむつ、使用済み切手等の寄付に関する相談。

※2 車いす、印刷機、本、レクリエーショングッズ等の貸出に関すること。

(1) ボランティア活動の推進及びコーディネート

令和3年度のボランティア登録者数や特技ボランティア登録者数について、登録更新作業を行った。ボランティア登録数が激減しているが、コロナ禍で活動先が休止や解散になったからという理由が多かった。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、特に高齢者施設はボランティアの受け入れが休止となっており、ボランティア希望者がいても調整が困難となった。

一方、ボランティアグループ・団体での活動は、感染症対策に工夫しながら再開したところも多く、ボランティアの紹介も倍増した。また、音楽や演芸など多彩な特技をもつボランティアの紹介については、イベントの中止等の影響からか依頼がなく、前年度に続いてコーディネートの実績数が大幅に減少した。

使用済みの切手整理についても、ボランティアが集まって活動することが困難となったため、「おうちDE切手整理ボランティア」と称し、自宅でできるボランティア活動を提供した。

(ボランティア登録状況)

	3年度	2年度
ボランティア登録数	535人	843人
特技ボランティア登録件数	95件	103件

(ボランティア活動紹介者数[活動内容別])

	3年度	2年度
個人ケース(送迎、趣味活動、話し相手等)での活動	0人	0人
施設(話相手、趣味活動、イベント等)での活動	20人	19人
ボランティアグループ・団体での活動	78人	33人
施設等への特技ボランティアの紹介	8件	4件
広報紙「ボランティアめぐろ」折込み	27人	17人
使用済み切手整理	12人	16人

(2) ボランティアグループ・団体支援

ボランティアグループに対してボランティア情報の提供、ボランティア活動者の紹介、ボランティア活動室や機材等の貸出、運営資金の助成などの支援を行った。

	3年度	2年度
グループ・団体登録数	58団体	46団体
簡易印刷機の貸出件数	2件	8件
ボランティア活動室の貸出団体数	6団体	6団体

(3) 広報・研修事業

令和3年度は新型コロナウイルス感染症状況を踏まえつつ、会場開催とオンライン開催（ハイブリッド型）を主軸とし、感染者の状況によってはオンラインのみの開催とし、研修・講座が中止にならないように取り組んだ。

夏体験ボランティアでは、7月下旬からの感染者数の増加により、活動の直前に高齢者施設等の受け入れが中止となったが、センター独自でボランティア活動を検討し、屋外で活動できる目黒川の清掃活動「クリーンクリーン大作戦」、オンラインで折り紙の花束を折り、それを高齢者施設へプレゼントする「笑顔で贈ろう！プロジェクト」を実施した。コロナ禍の今だからこそ、人と人とのつながりを再認識し、悩みや状況を共有し合える情報交換会等を開催した。

(研修・講座実施状況)

事業名	開催日数／開催月	参加者数
ボランティア入門講座（6月は合同登録説明会）	3日／4・6・12月 ※ハイブリッド開催	24人
ボランティア担当者連絡会（福祉施設等のボランティア受入れ担当職員対象）	1日／6月 ※ハイブリッド開催	16施設 (17人)
ボランティア・区民活動登録団体情報交換会 講義 「こんなご時世だからこそ！皆さんで活動の状況や取り組みを話しませんか？」 講師：菅野 明奈氏（インターネットで部活動をしようの会）、伊藤 文子氏（認定 NPO 法人プラチナ美容塾）	1日／6月 ※ハイブリッド開催	15団体
ボランティアティーチャー養成講座（車いす・高齢者疑似体験） 講師：福島 千晃氏（特別養護老人ホーム東が丘） 講師：速水 麻衣氏、石崎 佳美氏（東が丘福祉工房）	3日／7月	7人
青少年のためのボランティア体験事業 「夏体験ボランティア 2021」 （協力施設・団体等35カ所）	説明会5回 体験1～6日 （7～8月）	小・中学生 41人 高・大学生 168人
居場所づくり講座 「いつでもあつまれるところ（居場所）づくりませんか？」	1日／9月 ※ハイブリッド開催	13人
ボランティア団体共催講座 「ワールドクリーンアップデー2021」 共催／中目黒村美化委員会	3日／10月	12名

ボランティア担当者連絡会 (ステップアップ編) 「ボランティアをどう受け入れる・・・?」 講師：釜島 豪顕氏 (社会福祉法人東京栄和会なぎさ 和楽苑)	1日/2月 ※ハイブリッド開催	15施設 (15人)
災害ボランティア講座 「災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座」 講師：宮崎 賢哉氏 (災害支援・防災教育コーディネーター)	2日/2月 ※1日はハイブリッド開催	80人
ボランティアグループ共催講座 「いのちの循環を考えよう～植物で小物づくり&ガーデンニング豆知識講座～」 共催/「さーくる・ガーデン・クラブ」「南泉公園グリーンクラブ」	1日/11月 ※ハイブリッド開催	13名
ボランティア団体共催事業 総合庁舎西ロロビーパネル展 「絵本が世界をつなぎます」 共催/「多言語絵本の会 RAINBOW」	7日間/2月	— ※来庁者のカウントは取っていない。
NPO法人運営支援講座 「巻き込み力アップ研修」 講師：手塚 明美氏 (ソーシャルコーディネーターかながわ代表)	1日/2月 ※ハイブリッド開催	7人
ミニデイ・ふれあいサロン活動者研修会 (ボランティア活動者対象) 「傾聴入門～温かな聴き手を目指して」 講師：澤村 直樹氏 (アクティブリッスン代表)	1日/3月	31人
子育てサロン・ボランティア団体共催講座「赤ちゃんをもっと知ろう！」 講師：たなか だいすけ氏 (フェルデンクライス東京スタジオ あり：はーと) 共催/めぐりあプラネット、チャイルドサロン	1日/3月 ※ハイブリッド開催	30人

(4) 学校等に対する福祉学習支援事業

令和3年度は、新型コロナウイルス感染者数の増加により学校行事の中止・縮小等があったことから、地域の方と交流を持ちたいという理由での申し込みが多かった。例年と比べ小学校等の依頼及び参加者数並びにボランティアティーチャー(福祉体験学習ボランティア)の派遣人数が減少しているものの、福祉体験学習のプログラムを再検討し、学校等の依頼に出来る限り対応できるように努めた。

(福祉体験活動実施状況)

ティ：ボランティアティーチャー

	3年度		2年度	
	参加校等(参加者数)	ティ派遣延人数	参加校等(参加者数)	ティ派遣延人数
小学校	8 (1, 239人)	52人	9 (633人)	15人
中学校	0 (0人)		1 (10人)	
高校	1 (9人)		1 (9人)	
その他	3 (30人)		0 (0人)	
合計	12 (1, 278人)		11 (652人)	

(実施内容)

ティ：ボランティアティーチャー

他：外部関係者（保護者等）

実施先	内 容	実施日	対象者等（人）			
			学年	人数	ティ	他
下目黒小学校	①点字体験※	5月21日	4	58	0	0
	②車いす体験	6月9日	4	58	0	0
碑小学校	①高齢者疑似体験	9月14日	4	101	0	0
	②車いす体験	10月19日	4	102	0	0
	③手話体験	10月29日	4	99	0	0
	④点字体験※	11月26日	4	103	0	0
大岡山小学校	①車いす体験	9月17日	4	124	0	4
	②手話体験	9月22日	4	124	5	0
目黒星美学園小学校	高齢者疑似体験	10月13日	3	108	1	0
五本木小学校	車いす体験	10月21日	4	65	3	0
上目黒小学校	①車いす体験	11月10日	4	52	3	0
	②視覚障害者体験	12月1日	4	52	0	0
鷹番小学校	①車いす体験説明	11月24日	4	74	0	0
	②車いす・高齢者疑似体験	1月21日	4	69	0	0
月光原小学校	手話体験	12月3日	4	50	0	0
多摩大学目黒高校	車いす・高齢者疑似体験	11月29日	3	9	3	0

※ 上記の点字体験については職員がDVDを活用して実施した。

(5) ミニデイサービス・ふれあいサロン、子育てサロン事業

小地域福祉活動の一環として、ミニデイサービス活動やふれあいサロン、子育てサロン活動を支援した。令和3年度は新型コロナウイルス感染状況を踏まえつつ、開催に向けて創意工夫しながら動き出した年度となった。休止となっても、参加者への安否確認の電話・手紙等での連絡、介護予防のための資料・手づくり作品の送付など、参加者やボランティアとのつながりを継続した。

ア ミニデイサービス・ふれあいサロン

(活動実績)

	3年度	2年度
グループ数	33団体	34団体
総開催回数	543回	507回
利用者数（延人数）	2,481人	2,234人
ボランティア活動者数（延人数）	1,873人	1,810人

〔ミニデイ・サロン連絡会〕開催実績)

開催	開催月日	参加者	議 題
第1回	4月15日	中止	緊急事態宣言中のため中止
第2回	6月23日	25人	「年間計画・検討課題の決定」
第3回	9月20日	36人	地域包括支援センター地区別懇談会 「ワクチン接種後の状況や今後のサロンへの取り組みについて」
第4回	11月16日	23人	目黒警察署講義「特殊詐欺被害未然防止について」
第5回	1月25日	23人	次年度の年間計画について 情報交換会「男性参加者にとって魅力ある活動とは」

イ 子育てサロン

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、全体的な開催回数や参加者数は減少したが、場所を変更し屋外で開催を実施するサロンもあった。

(活動実績)

	3年度	2年度
グループ数	4団体	4団体
総開催回数	35回	41回
参加者数(延人数)	381人	596人

(6) ボランティア保険・行事保険加入手続き

ボランティア活動における事故やボランティア団体等が主催する行事中の参加者全員の事故に備え、ボランティア保険、行事保険への加入手続きを行った。

(取扱人数・件数)

	3年度	2年度
ボランティア保険	1,949人	2,718人
行事保険	224件	111件

(7) 車いす貸出

一時的、緊急的に車いすを必要とするかたを対象に長期・短期の貸出を行った。また、利用者の利便性を考慮して24カ所の住区センターに車いすを配置し、短期の貸出を行った。令和3年度の貸出状況は、長期・短期とも減少したが、ワクチン接種のため、一時的に貸出を希望されるかたが多かった。

(車いす貸出件数)

	3年度	2年度
長期(1カ月・500円)[最大3カ月まで]	56件	66件
短期(1週間・無料)[住区センター分を除く]	64件	46件

(8) 福祉機器のリサイクル

不用になった介護用ベッドやポータブルトイレ、シルバーカーなどのリサイクル情報を登録し、社協の広報紙やホームページを通じ、必要としているかたにあっせんした。

(登録・あっせん件数)

	3年度	2年度
登録件数	22件	23件
あっせん件数	18件	52件

(9) 使用済み切手の収集・整理活動

住区センターや郵便局に設置した回収ボックスで集めた使用済み切手を、ボラン

ティアグループや老人クラブなどの協力によって整理し、専門業者を通じて換金した。令和3年度は、この活動による収益で貸出用の車いすを2台購入した。

(収集整理の実績)

	3年度	2年度
収集量	177kg	170kg
収集活動 協力者・協力グループ	72件	94件
整理活動 協力者・協力グループ	28件	3件

(10) 紙おむつ等の寄付受付・配布

寄付された紙おむつ等を必要な区民に無償で配布した。

(寄付の受付・配布実績)

	3年度	2年度
受付件数	73件	99件
配布件数	211件	83件

(11) 情報コーナー

区民に対し地域活動に関する情報提供を行うため、関係図書や資料（ポスター・チラシ・広報紙等）を収集・管理した。

(外部情報受付件数)

	3年度	2年度
市民活動団体	8件	18件
NPO・NGO	105件	121件
民間法人	325件	352件
他社協・ボランティアセンター	711件	802件
目黒区関係	349件	208件
区外行政関係	66件	81件
その他	0件	26件
計	1,564件	1,608件

5 助成事業

(1) 助成金交付事業

歳末たすけあい・地域福祉募金の配分金である地域福祉活動費を活用して、対象団体より申請を受付し、各種助成金交付事業を実施した。

(助成金交付事業実績)

分野	件数	助成金額
老人クラブ・同連合会への助成	40件	1,369,710円
障害者団体への助成	3件	360,000円

福祉施設への助成（高齢・障害・児童）	6件	1,198,000円
家庭福祉員、子ども会・同連合会、少年団体連絡協議会、保護司会（社明運動）への助成	22件	850,000円
就労移行支援、認証保育所	0件	0円
ボランティア・区民活動助成	3件	150,000円
ミニデイサービス・ふれあいサロン・子育てサロン活動助成	34件	957,000円
合 計	108件	4,884,710円

（２）共催事業

目黒区及び目黒区民生児童委員協議会と共催し、めぐろパーシモンホールにおいて区内老人クラブを対象に例年実施している敬老福祉大会については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった。

（３）赤い羽根共同募金事業

赤い羽根共同募金地域配分の公募・受付を行い、共同募金会目黒区配分推薦委員会の審議を経て、東京都共同募金会に配分推薦を行った。

ア 申請額の上限は30万円、補助率75%（事業費が40万円の場合には30万円を助成、10万円は自己負担になる。）で、対象事業は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までに実施される事業。

イ 区内社会福祉施設等から23件、640万円の申請を受理した。

ウ 配分推薦は23件全件について順位を付けず推薦（全件第1順位として扱われる。）し、推薦どおり決定されている。

6 生活福祉資金貸付事業

東京都社会福祉協議会からの委託を受けて、区民からの資金利用に関する相談支援、対象者の借入申請に関する書類準備と交付手続き、償還に関する相談支援及び書類交付、調査等を行った。

各資金では生活困窮者自立支援法に基づき、必要に応じて目黒区に設置された自立相談支援機関その他と連携を図り、民生児童委員の協力を得ながら対応した。

（１）教育支援費

低所得世帯に対し、進学や就学の継続を支援し、将来的な世帯の自立につなげるために無利子による資金貸付の申請受付等を行った。

		3年度	2年度
相談状況	電話相談	34件	168件
	来所相談	42件	177件
	合 計	72件	345件
貸付状況	申請件数	11件	25件
	貸付決定件数	9件	17件
	貸付決定額	※1 7,206,000円	※2 16,430,000円

償還状況	元金償還計画	34,057,387円	26,537,627円
	元金償還額	15,083,900円	9,828,950円
	元金償還率	44%	37%
	償還完了件数	5件	0件

※1 全部または一部辞退2件、588,000円を含む。 ※2 全部または一部辞退2件、2,140,000円を含む。

(2) 福祉費

対象世帯に対し、日常生活のうえで一時的に必要なと見込まれる資金(出産、転宅、障害者用自動車購入、他)を、低利または無利子で貸付受付等を行った。

		3年度	2年度
相談状況	電話相談	116件	178件
	来所相談	43件	148件
	合計	159件	326件
貸付状況	申請件数	3件	1件
	貸付決定件数	3件	1件
	貸付決定額	4,868,000円	90,000円
償還状況	元金償還計画	3,645,280円	3,974,658円
	元金償還額	975,730円	1,042,438円
	元金償還率	26%	26%
	償還完了件数	3件	0件

(3) 緊急小口資金(本則)

低所得世帯で、貸付対象理由(医療費・介護費の支払、火災等被災、他)により緊急かつ一時的に生計の維持が困難な世帯に、資金貸付の申請受付等を行った。

		3年度	2年度
相談状況	電話相談	13件	10件
	来所相談	5件	4件
	合計	18件	14件
貸付状況	申請件数	0件	0件
	貸付決定件数	0件	0件
	貸付決定額	0円	0円
償還状況	元金償還計画	1,208,000円	1,298,500円
	元金償還額	0円	15,500円
	元金償還率	0%	1%
	償還完了件数	0件	0件

(4) 総合支援資金(本則)

日常生活全般に困難な事情を抱えた世帯の生活再建を図るため、相談者への継続

的な支援と生活費、資金貸付の申請受付等を行った。

		3年度	2年度
相談状況	電話相談	46件	20件
	来所相談	60件	30件
	合計	106件	50件
貸付状況	申請件数	0件	0件
	貸付決定件数	0件	0件
	貸付決定額	0円	0円
償還状況	元金償還計画	22,508,468円	22,474,117円
	元金償還額	1,325,972円	1,754,526円
	元金償還率	5%	7%
	償還完了件数	4件	0件

※ 上記(1)～(4)の表の元金償還率は、小数点以下を四捨五入で算出。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困窮するかたへの貸付

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による休業等により収入の減少があるかた等に対し、令和2年3月25日から開始された緊急小口資金（特例貸付）及び総合支援資金（特例貸付）の申請受付を行った。

（申請書の内容審査、貸付決定、送金事務は東京都社会福祉協議会が実施）

★年度区分、転出・転入等により申請書送達件数と貸付決定件数に相違あり。

ア 緊急小口資金（特例貸付）

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業等により収入の減少があり、緊急かつ一時的な生活維持のための貸付を必要とする世帯に対し、貸付額20万円以内で一括交付による無利子貸付の申請受付等を行った。

		3年度	2年度
貸付状況	申請書送達件数	1,225件	3,907件
	貸付決定件数	1,262件	※ 3,952件

※ 令和2年5月～9月の労働金庫及び郵便局での受付分を含む。

イ 総合支援資金（特例貸付）初回貸付

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難になっている世帯に対し、2人以上世帯月額20万円、単身世帯月額15万円で3カ月間を基本とする無利子貸付けの申請受付等を行った。

		3年度	2年度
貸付状況	申請書送達件数	1,125件	2,693件
	貸付決定件数	1,364件	2,284件

ウ 総合支援資金（特例貸付）延長貸付

総合支援資金（特例貸付）初回貸付の利用後、なおも生活困窮の状況が続く世帯に対し、自立相談支援機関での相談や継続的な支援を前提として、原則3カ月まで貸付期間を延長する、延長貸付の申請受付等を行った。（令和3年6月末で終了）

		3年度	2年度
貸付状況	申請書送達件数	498件	1,451件
	貸付決定件数	585件	1,273件

エ 総合支援資金（特例貸付）再貸付

緊急事態宣言の再発令等に伴う経済支援策の一つとして、緊急小口資金及び総合支援資金の貸付が終了する世帯を対象とする再貸付（1回のみ3カ月まで）の実施に伴い、申請受付等を行った。（令和3年12月末で終了）

		3年度	2年度
貸付状況	申請書送達件数	1,452件	1,233件
	貸付決定件数	2,014件	615件

（6）離職者支援資金

失業によって生計の維持が困難になった世帯に、再就職までの期間、低利で生活資金の資金貸付を行っていたが、平成21年9月に廃止となった。なお、償還業務は継続して受託している。

		3年度	2年度
償還状況	償還中件数	7件	8件
	元金償還計画	6,901,680円	7,150,355円
	元金償還額	224,350円	230,245円
	元金償還率	3%	3%
	償還完了件数	1件	0件

（7）不動産担保型生活資金

低所得の高齢者世帯（65歳以上の者で構成する世帯）を対象に、今後の生活を維持できるよう自己所有の居住用不動産（マンションを除く：土地・建物評価額1,500万円以上）を担保として、生活資金の貸付を行う制度である。令和3年度は来所や電話による相談があったものの、貸付決定には至らなかった。

		3年度	2年度
相談状況	電話相談	12件	19件
	来所相談	8件	7件
	合計	20件	26件
貸付状況	申請件数	0件	1件
	貸付決定件数	0件	0件
	貸付決定額	0円	0円

(8) 要保護世帯向け不動産担保型生活資金

低所得の高齢者世帯（65歳以上の者が同居する世帯）を対象に、今後の生活を維持できるよう自己所有の居住用不動産（マンション：土地・建物評価額500万円以上）を担保として、生活資金貸付の申請受付等を行う制度である。令和3年度は電話による相談があったものの、貸付決定には至らなかった。

		3年度	2年度
相談状況	電話相談	1件	2件
	来所相談	0件	2件
	合計	0件	4件
貸付状況	申請件数	0件	0件
	貸付決定件数	0件	0件
	貸付決定額	0件	0件

(9) 臨時特例つなぎ資金

公的給付制度または公的貸付制度の申請を受理されている住居のない離職者で、貸付等開始までの期間、生活に困窮している場合に、生活資金（無利子）の申請受付等を行う制度である。令和3年度は相談・貸付ともに実績がなかった。

		3年度	2年度
相談状況	電話相談	0件	0件
	来所相談	0件	0件
	合計	0件	0件
貸付状況	申請件数	0件	0件
	貸付決定件数	0件	0件
	貸付決定額	0円	0円

(10) 生活復興支援資金

東日本大震災により被災した低所得世帯に当面の生活に必要な経費等の貸付を行うことにより、生活の復興を支援するための資金として申請受付等を行う制度である。震災から10年経過する中で、平成26年度以降は、相談・貸付ともに実績がない。

		3年度	2年度
相談件数		0件	0件
貸付状況	申請件数	0件	0件
	貸付決定件数	0件	0件
	貸付決定額	0円	0円

7 権利擁護センター事業

(1) 成年後見制度利用支援事業

成年後見制度を身近なものとして利用できるように、成年後見制度推進機関として制度の周知を行い、制度利用支援事業を実施した。

ア 成年後見制度推進機関の運営

(ア) 成年後見制度の周知

後見制度の周知を図るため、専門家による後見人サポート組織「めぐろ成年後見ネットワーク」主催による区民向け講演会、及び権利擁護センター主催による制度や相続等についての講演会を開催した。また、目黒区から受託したエンディングサポート事業として終活に関する講演会と相談会を実施した。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、講演会はオンラインを活用して実施した。

このほかに、めぐろ成年後見ネットワーク委員を講師として派遣する団体向けの出張講座を2回実施した。

(「めぐろ成年後見ネットワーク」主催講演会の開催状況)

開催日	テーマ	講師	参加者数
11月2日	家族のための介護保険制度と成年後見制度	司法書士 清原 正承氏	6人

(権利擁護センター主催講演会の開催状況)

開催日	テーマ	講師	参加者数
令和4年 3月15日	どう使う、遺言・任意後見	弁護士 松本 俊一氏	8人

(エンディングサポート事業講演会及び相談会の開催状況)

開催日	テーマ	講師	参加者数
令和4年 2月26日	おひとりさまやおひとりさま予備軍の不安対策～誰に何を託すのか～	明石 久美氏 (明石シニアコンサルティング代表)	22人
令和4年 3月8日	エンディングサポート事業 相談会	弁護士 長尾 愛女氏 司法書士 清原 正承氏	5人

(イ) 成年後見人等の紹介

専門家による第三者の後見人等を希望するかたに「成年後見人等受任候補者名簿」に登録している弁護士・司法書士・社会福祉士の専門家を紹介した。

(紹介状況)

内 訳	3年度	2年度
候補者名簿登録者数	81人	76人
後見人等の紹介件数 (うち、団体等の紹介件数)	36件 (1)	30件 (0)
後見人等以外の紹介件数 (相続、財産管理など)	6件	6件

(ウ) 成年後見制度の利用に関する相談

成年後見制度、相続・遺言などに関する専門相談（弁護士3人、司法書士1人）や、制度及び高齢者や障害者に対する日常生活自立支援事業等に関する一般相談（職員が対応）を実施した。

（専門相談実績）

内 訳	3年度	2年度
相談人数	77人	58人
相談件数	87件	64件

※ 相談件数：1人の相談者が複数件を相談した場合は、延件数を掲載した。

（一般相談実績）

内 訳		3年度	2年度
権利擁護	日常生活自立支援事業	1,676件	1,519件
	身体障害者等福祉サービス 利用援助事業	40件	14件
	事務管理	8件	21件
成年後見等 (専門相談の受付 分を含む。)	成年後見制度(法定・任意)	511件	504件
	遺言作成	20件	14件
	財産相続	14件	12件
	権利侵害	1件	3件
	法人後見	377件	413件
	見守り・財産管理委任契約等	9件	15件
苦情相談		101件	64件
その他		20件	10件
計		2,777件	2,589件

(エ) 市民後見人等候補者養成の実施

これまで東京都で実施していた養成講習を、平成26年度からは目黒区で行っている。地域の中で後見人を養成し、講習終了後は、日常生活自立支援事業登録型生活支援員・法人後見サポーターとして現場での実地経験を積み、後見受任後は、本社協が監督人として指導・支援を行うといった、養成から後見活動まで一貫してサポートする仕組みとなっている。

3年度			2年度		
期間・科目数等	受講者数	修了者数	期間・科目数等	受講者数	修了者数
11月～3月実施 (座学8日間、14科目、実習1回)	10人	8人	新型コロナウイルス感染拡大のため中止		

内 訳	3年度	2年度
市民後見人候補者数(計)	45人	38人

(オ) 生活支援員等への支援

市民後見人、市民後見人候補者、法人後見サポーター、日常生活自立支援事業登録型生活支援員に対し、後見業務等に関する研修を年2回、交流会を年1回開催し、資質向上を図っている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を見送り、東社協が配信する研修動画について情報提供を行った。

(カ) 親族後見人への支援

親族後見人登録者に、成年後見制度の動向に関する資料を1回送付した。また、目黒区報への掲載及び区内各施設へチラシ等を配布し、親族後見人登録制度への参加の呼びかけを行った。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため親族後見人交流会は中止した。

内 訳	3年度	2年度
親族後見人登録者数（被後見人数）	17人（15人）	12人（10人）

(キ) 成年後見制度の利用に係る報酬助成

目黒区の補助事業として、成年後見制度の利用に係る報酬助成事業（受任した専門家等への報酬助成）を引き続き実施した。

助成実績	3年度	2年度
交付件数	10件	8件
助成金額	2,158,380円	1,655,756円

(ク) 成年後見制度の利用に係る申立助成

目黒区の補助事業として、成年後見制度の利用に係る申立費用を助成する事業（所得や資産が少なく申立費用を負担することが困難なかたに対する助成）。令和3年度の実績は昨年同様なかった。

助成実績	3年度	2年度
交付件数	0件	0件
助成金額	0円	0円

イ 法人後見事業の推進

親族や専門家に後見人等を依頼することが困難な区民に対して、法定後見人及び任意後見人を平成18年度から社協が受任している。また、市民後見人の監督人を法人として社協が行っている。

（法定後見人の受任状況）

※ カッコ内は法人後見監督人受任件数

内 訳	3年度	2年度
継 続	8（8）件	8（9）件
新 規	2（3）件	4（1）件
終 了	6（3）件	4（2）件
計	4（8）件	8（8）件
受任件数累計	42（20）件	40（17）件

(任意後見人の受任状況)

内 訳	3年度	2年度
継 続	1件	1件
新 規	0件	0件
計	1件	1件

ウ 見守り・財産管理委任契約等

生活あんしん見守りサービス事業から移行し、社協と任意後見契約を締結しているかたを対象に、見守り・財産管理委任契約、死後事務委任契約を締結して支援している。

内 訳	3年度	2年度
見守り・財産管理委任契約 死後事務委任契約	1件	1件
計	1件	1件

(2) 権利擁護事業

高齢者や障害者のかたが、住み慣れた地域で安心して自立した生活が送られるよう、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理サービスを実施した。

また、保健福祉サービスに関する苦情に対して、第三者の立場で対応する「保健福祉サービス苦情調整委員」による苦情相談を実施した。

なお、事業運営にあたり、運営等審査会など各種会議を開催し、専門家による審議等を行った。

[日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)状況]

内 訳	3年度	2年度
新規契約件数	14件	12件
解約件数	13件	14件
年度末契約数	40件	39件

(身体障害者等福祉サービス利用援助事業状況)

内 訳	3年度	2年度
新規契約件数	2件	0件
解約件数	0件	0件
年度末契約数	3件	1件

(苦情調整事業の状況)

苦情調整委員への申立内容	3年度	2年度
介護保険	0件	2件
高齢者	2件	0件
保 健	0件	1件
障害者	1件	0件
総合支援法	1件	1件

低所得	1件	1件
子育て支援	0件	0件
保 育	0件	1件
その他	0件	0件
計	5件	6件

(運営等審査会など各種会議の開催状況)

回数	開催日	会 議 内 容
(1) 運営等審査会(5回開催)		
1	令和3年 5月26日	(協議) 日常生活自立支援事業ケースについて (報告) 令和2年度事業実績について、令和3年度事業計画について
2	9月22日	(審議) 市民後見人へのリレーケースについて (協議) 日常生活自立支援事業ケースについて (報告) 事業実績について
3	11月24日	(審議) 法人後見新規受任ケースについて 市民後見人へのリレーケースについて (協議) 日常生活自立支援事業ケースについて (報告) 事業実績について
4	令和4年 1月26日	(審議) 法人後見新規受任ケースについて (協議) 日常生活自立支援事業ケースについて 身体障害者等福祉サービス利用援助事業ケースについて (報告) 事業実績について
5	3月16日	(協議) 日常生活自立支援事業ケースについて 身体障害者等福祉サービス利用援助事業ケースについて (報告) 事業実績について
(2) 専門相談員連絡会(2回開催)		
1	令和3年 9月1日	専門相談事例報告、意見交換、令和2年度事業実績報告、令和3年度上半 期事業実績報告
2	令和4年 3月2日	専門相談事例報告、意見交換、令和3年度事業実績報告、令和4年度日程 確認
(3) 保健福祉サービス苦情調整委員会議(6回開催)、区長報告(1回)・情報交換会(1回)		
1	令和3年 5月13日	苦情調整委員制度運用状況(令和3年3月～4月) 区長報告について
2	6月29日	区長報告(令和2年度苦情調整委員制度運用状況)
3	7月19日	苦情調整委員制度運用状況(令和3年5月～7月)
4	9月28日	苦情調整委員制度運用状況(令和3年8月～9月) 令和3年度意見交換会について 生活福祉委員会について

5	11月15日	苦情調整委員制度運用状況(令和3年9月～10月) 令和3年度意見交換会について、継続調査について
6	令和4年 1月15日	苦情調整委員制度運用状況(令和3年11月～12月) 令和3年度意見交換会について
7	1月15日	苦情調整委員による意見交換会 健康福祉部、子育て支援部の各課長もしくは係長が出席。情報を交換し、苦情調整委員制度や現場の対応について相互理解を深め、サービス向上について意見交換を行った。
8	3月23日	苦情調整委員制度運用状況(令和3年12月～4年2月) 令和3年度運用状況報告書について、継続調査について
(4) 成年後見人等受任候補者連絡会		
年1～2回の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。		
(5) めぐろ成年後見ネットワーク連絡会(3回開催)※オンライン開催		
1	令和3年 7月14日	(議題) 市民後見人養成講習について、令和3年度主催講演会について (報告) 令和2年度事業実績について
2	10月7日	(議題) 代表・副代表選出、委員の増員について 親族後見人交流会について (報告) 権利擁護センター事業説明
3	令和4年 2月15日	(議題) 令和4年度主催講演会について 令和3年度市民後見人養成講習について意見交換 (報告) 第1回主催講演会について、令和3年度出張講座について (情報交換会) 報酬助成について

8 ファミリー・サポート・センター事業

前年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、就労に起因するサポートや出産・病気での利用、ひとり親世帯などに対象や内容を制限しサポートを行った。

援助理由では、「送迎と勤務時間が合わない」「仕事を休めない」が1,603件と全体の7割以上を占めた。体調を崩す保護者も多く、「保護者の病気や通院」での利用も多かった。出産に際しても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実家からの手伝いを受けられないため相談にみえる区民も目立った。利用内容等を制限した中、大きな問題もなく運営することができた。

利用登録については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインを利用し、事業説明会を年16回開催した。若い世代はオンラインに対して抵抗がなく、問題なく受け入れられ開催できた。今後も参加しやすいように日時を工夫しオンラインでの事業説明会を開催する。

協力会員数は、基礎研修会によって新たに23人が登録したが、新型コロナウイルス感染症への不安や体力的な事情から退会する会員も多く、最終的に4人の増加となった。

令和3年度も子ども家庭支援センターからの相談対応など目黒区の所管部署と連携して支援を行った。

(利用会員・協力会員の登録状況)

	3年度	2年度
利用会員	335人	399人
協力会員	424人	420人

※ 両方会員4人を含む。

(1) 利用状況

(申込状況)

区 分		3年度	2年度
依 頼		2,408件	2,415件
成 立		2,173件	2,113件
不成立		0件	0件
総利用時間		3,149時間	2,686時間
キャンセル	利用会員からの申出	216件	278件
	協力会員からの申出	15件	24件
	事務局判断	4件	0件

(利用理由別の件数)

利用理由	3年度	2年度
送迎と勤務時間が合わない	1,356件	1,357件
兄弟姉妹の世話	25件	5件
仕事を休めない	247件	140件
産前・産後の育児援助	123件	173件
臨時的・変則的就労	7件	24件
保護者の病気や通院	231件	277件
保育施設や学校の行事	0件	0件
勤務時間と子どもの帰宅時間が合わない	165件	88件
その他	19件	49件
計	2,173件	2,113件

(2) 援助状況

(援助の内容別件数)

援助内容	3年度	2年度
保育園送迎(保育なし)	906件	998件
未就園児の保育	110件	114件
保育園の送迎保育・帰宅後保育	417件	312件
学童保育帰宅後保育・学童放課後保育と送迎	274件	134件
幼稚園送迎・保育等	110件	330件
その他(休園日保育・支援学級の送迎等)	356件	225件
計	2,173件	2,113件

(活動時間別の援助回数)

時 間	3 年 度	2 年 度
1 時間未満	8 2 7 回	1, 0 4 2 回
1 時間以上 2 時間未満	4 6 4 回	2 9 7 回
2 時間以上 3 時間未満	3 1 5 回	2 6 2 回
3 時間以上 4 時間未満	1 6 9 回	1 0 8 回
4 時間以上 5 時間未満	4 9 回	3 1 回
5 時間以上 6 時間未満	2 回	1 1 回
6 時間以上	2 回	5 回
計	1, 8 2 8 回	1, 7 5 6 回

※ 兄弟姉妹の同時サポートの場合、人数（件数）に関係なく 1 回として計算している。

(3) 活動に向けた研修会・交流会

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、実習のある「子どもの救命・応急手当」が 1 回中止となった。実習のない研修講座については、オンラインを併用し開催した。

5 年に 1 回の参加が必要となった救命講習は「救命講習と事故予防」のステップアップ研修を 2 回開催し、合計 9 人の協力会員が参加した。

(開催状況)

研修会等	開催日	テーマ（講師等）	参加者数	登録者数
基礎研修会 (第 1 回) 社協研修室	令和 3 年 6 月 2 日	子どもの救命・応急手当（実習を含む） （NPO 法人シーボウル海の教室） 事故予防（当センター）	7 人 うちオンライン 参加 3 人	5 人
	6 月 7 日	子どもを理解するために （元目黒区立保育園長 齊藤景子氏） 目黒区の子育て事情（地域支援課長） サポートの心構え（当センター）	6 人	
基礎研修会 (第 2 回) 社協研修室	7 月 1 2 日	子どもを理解するために （元目黒区立保育園長 齊藤景子氏） 目黒区の子育て事情（地域支援課長） サポートの心構え（当センター）	1 0 人 うちオンライン 参加 5 人	9 人
	7 月 1 3 日	子どもの救命・応急手当（実習を含む） （NPO 法人シーボウル海の教室） 事故予防（当センター）	8 人	
基礎研修会 (第 3 回) 社協研修室	9 月 8 日	子どもの救命・応急手当（実習を含む） （NPO 法人シーボウル海の教室） 事故予防（当センター）	中止	1 人
	9 月 1 0 日	子どもを理解するために （元目黒区立保育園長 齊藤景子氏） 目黒区の子育て事情（地域支援課長） サポートの心構え（当センター）	オンライン開催 7 人	

基礎研修会 (第4回) 社協研修室	11月1日	子どもを理解するために (元目黒区立保育園長 齊藤景子氏) 目黒区の子育て事情(地域支援課長) サポートの心構え(当センター)	2人	6人
	11月6日	子どもの救命・応急手当(実習を含む) (NPO法人シーボウル海の教室) 事故予防(当センター)	4人	
基礎研修会 (第5回) 社協研修室	令和4年 1月26日	子どもを理解するために (元目黒区立保育園長 齊藤景子氏) 目黒区の子育て事情(地域支援課長) サポートの心構え(当センター)	オンライン開催 3人	2人
	1月28日	子どもの救命・応急手当(実習を含む) (NPO法人シーボウル海の教室) 事故予防(当センター)	2人	
ステップア ップ研修会 (第1回)	7月10日	子どもの救命・応急手当(実習を含む) (NPO法人シーボウル海の教室) 事故予防(当センター)	5人	
ステップア ップ研修会 (第2回)	10月6日	読み聞かせ	8人	
ステップア ップ研修会 (第3回)	12月3日	子どもの救命・応急手当(実習を含む) (NPO法人シーボウル海の教室) 事故予防(当センター)	4人	
延参加人数			66人	23人

9 - 1 生活支援・CSW体制整備事業【生活支援】

5地区の第2層(地区単位)生活支援体制整備事業を目黒区から受託し、高齢者等の日常生活支援に係る協議体の設置・運営、生活支援コーディネーターの配置により、多様な主体による地域の支え合いを広げ、高齢者の生活を重層的に支援する体制の充実・強化に取り組んだ。

(1) 第2層協議体の設置・運営

目黒区では、地域活動の関係者、生活支援・介護予防サービス提供主体等が参加し、地域の支え合いを広げることを目的とした情報共有及び連携強化を図る場である協議体を地区ごとに運営することとしている。

令和3年度は、今後の協議体の活動目標について、地域全体の支え合いの意識醸成や支え合いの裾野を広げていくことに主眼を置き、「地域づくりのためのネットワークの維持・強化」と「地域に向けた普及啓発」をすることと整理した。そのうえで、多様な団体や地域活動者とのネットワークを広げ、協議体の取組や地域の支え合い活動について情報発信し、新たな人材の発掘や相談へのつなぎ役となる理解者を増やせるよう取り組んだ。

さらに、新型コロナウイルスの感染対策をした上で、オンラインを取り入れた会議等を開催した。

ア 各地区協議体会議の開催

地区	開催回数	内容	開催形式
北部いきいき支え合いネットワーク	4回 (7・9・11・3月)	・座談会の開催について検討など	対面、 ハイブリッド
東部ふれあい協議会	4回 (7・9・12・2月)	・困りごとの相談窓口等を一覧にしたチラシを作成	対面、 ハイブリッド
中央まるごとネットワーク	3回 (7・12・2月)	・地域資源情報のリスト化に向けた情報共有	ハイブリッド
南部支え合いまち会議	3回 (7・10・1月)	・地域の支え合いの意識醸成を図るため広報紙「めぐろなんまちふれあい通信」を作成	対面、 オンライン
西部支え合いまち会議	4回 (7・10・12・2月)	・地域のつながりを育むため広報紙「にしまちいきだより」を作成	対面

イ 各地区での取組

地区	開催日	内容	参加者数
北部	12月3日	第1回ほくいきネット座談会 ・「地域のお宝・ふだんの暮らしの支え合い再発見」 ・「ウィズコロナでの地域活動の状況、困りごと、工夫していること」など情報交換	14人

ウ オンライン座談会

地区	開催日	内容	参加者数
臨時座長会	4月19日	・令和2年度の取組報告 ・協議体の目標整理	5人

(2) 第2層生活支援コーディネーターの配置

関係者等のネットワークづくり、協議体の運営支援、地域のニーズや資源の把握とマッチングなどのコーディネートを行うことによって地域の支え合い活動を推進する生活支援コーディネーターを配置している。令和3年度はオンラインでのコーディネーター養成や地域づくりの研修等に継続的に参加し、コーディネーターの能力向上を図った。

また、地域課題や地域資源等を把握し、相談支援の連携を図るため、関係機関が主催する会議・研修等への参加・傍聴を行った。

9 - 2 生活支援・CSW体制整備事業【CSW】

令和3年度から生活支援コーディネーターとの兼務により新たにCSWを配置した。制度の狭間にあるケースや地域のネットワーク等から発見した地域課題に対し、地域住民や関係団体とともに解決に向けて取り組んでいくために、令和3年度は関係機関や地域へのCSWの周知活動を重点的に行なった。

まず、CSWへ相談を寄せてもらえる関係づくりのため、これまで発行していた広

報誌をテーマや題材の幅を広げ「みんなのささえあいレポート」としてリニューアルし、地域ごとの身近な情報を集めた地区版の発行を行った。加えて、関係機関や地域活動団体等への訪問活動、地域包括支援センターとの定期的な連絡会等の開催、地区民生児童委員協議会への出席、目黒区教育委員会のスクールソーシャルワーカーとの情報交換会の開催などにも積極的に取り組んだ。

また、ひきこもりに関する親子のコミュニケーションや社会参加等に関する学習会や家族会の立ち上げに向けた準備会を開催することで、ひきこもり当事者を抱える家族への支援を行った。

さらに、フードバンクやフードドライブ、子ども食堂などの「食」に関する地域活動を行う団体と食支援活動に関心のある区民を対象とした情報交換会を開催し、課題共有や活動者同士のつながりづくりに取り組んだ。

(相談件数)

	3年度
新規相談	73件
継続相談(延)	561件

(相談件数)

	3年度
訪問	726件
来所	99件
電話	981件
メール	128件
その他	143件
合計	2,077件

(広報誌の発行)

広報紙名	対象	内容	発行回数
みんなのささえあいレポート	区民	・地域活動や支え合い情報 ・コーディネーターが見聞きした情報等を紹介	3回

(ひきこもり学習会・家族会準備会)

名称	開催回数	内容	参加者数
家族のためのひきこもり学習会	3回 (4・12・2月)	・令和2年度 第3回「家族以外の人とのつながりをつくる」※ 講師：阿部 達明氏 (ファイナンシャルプランナー) ・第1回「関係性を変えるための会話のコツ」 講師：NPO 法人 CNS ネットワーク協議会	76人 (延)

		後藤 美穂氏 (看護師・保健師) 森中 洋美氏 (臨床心理士・公認心理師) ・第2回「一步を踏み出すために親 や支援者ができること」 講師：NPO 法人 First Step 理事長 岩崎 晴彦氏 NPO 法人ネイチャーズ 代表 山下 光哉氏	
ひきこもり家族会 準備会	7回 (6・7・9・10・ 11・1・3月)	・会場や運営について ・近況報告、情報共有など	51人 (延)

※令和2年度に開催した連続講座の第3回を、新型コロナウイルス感染者数増のため令和3年4月に延期。

(普及啓発事業)

名称	開催日	内容	参加者数
食の循環で笑顔が広がる 目黒の食支援を知ろう	令和4年 3月5日	・食支援団体の活動紹介 ・グループトーク、情報交換	16人

10 ひとり親貸付事業

東京都社会福祉協議会が実施しているひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の経由事務を行っている。この事務経費は、平成29年度から東京都社会福祉協議会から交付されている。令和3年度の申請・決定件数は、前年度同様に1件であった。

		3年度	2年度
貸付 状 況	申請件数	1件	1件
	貸付決定件数	1件	1件
	貸付決定額	208,000円	93,000円

11 歳末たすけあい事業

目黒区民生児童委員協議会との共催により、各町会・自治会の多大な協力を得て、地域に対する呼びかけや募金の収集・取りまとめ等を行った。目標額の2,400万円には到達しなかったものの、前年度を超える、1,790万円余の募金が寄せられた。

寄せられた募金は執行計画（見舞金・募金活動費・事務費・翌年度使用地域福祉活動費）に則り、東京都共同募金会に一旦納付した後、令和3年度に取り扱う見舞金・募金活動費・事務費の配分を受け執行した。

令和2年度歳末たすけあい・地域福祉募金のうち翌年度に使用する地域福祉活動費について、令和3年4月に東京都共同募金会から10,404,831円の配分を受け、高齢者福祉支援事業費、障害者(児)福祉支援事業費、児童福祉支援事業費、ひとり親家庭福祉支援事業費、地域福祉支援事業費として執行した。

配分金の在り方については、共同募金会目黒区配分推薦委員会で検討を進めるとともに、地域福祉活動助成金の交付に関する審査を行った。

(募金額・募金の配分内訳)

(単位：円)

	3年度	2年度
募金額	17,908,949	17,654,691
配分内訳		
(1)見舞金 支援を必要とする世帯・居宅ひとり暮らし 高齢者への見舞金	6,046,000	6,106,000
(2)募金活動費 区内町会・自治会の募金活動費	866,700	851,100
(3)事務費 募金袋印刷経費、事務用品購入経費、通信 運搬費 など	508,850	292,760
(4)地域福祉活動費 ※募金実施の翌年度に都共同募金会から配 分を受けて執行する経費 ①ミニデイサービス・ふれあいサロン・子育 てサロンへの活動助成 ②高齢者・障害者・児童育成の団体・施設が 行う行事への助成 ③ボランティア・市民活動団体への活動助成 ④地域福祉情報の提供・地域福祉のつどいの 実施など	10,487,399	10,404,831

※(4)地域福祉活動費の一部は、19ページの助成金交付事業に充てられている。

12 障害福祉サービス事業

東京都から指定を受けた事業所（障害福祉サービスセンター）として、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業3分野及び移動支援事業を、目黒区から引き継いで実施している。また、目黒区からの委託を受け心身障害者（児）緊急時等見守り事業についても継続して実施した。令和3年度は前年度に比べ実績増となったが、特に居宅介護において利用者の通院等介助での利用が増加した。

(1) 実施事業及び実績

ア 自立支援給付

	3年度		2年度	
	利用者数	サービス派遣回数	利用者数	サービス派遣回数
居宅介護	19人	3,208回	17人	2,022回
重度訪問介護	3人	510回	3人	1,020回
同行援護	19人	1,825回	19人	1,581回
計	41人	5,543回	39人	4,623回

イ 地域生活支援事業

	3年度		2年度	
	利用者数	サービス派遣回数	利用者数	サービス派遣回数
移動支援事業	19人	2,095回	17人	1,454回

ウ 日常生活の援助

	3年度		2年度	
	登録者数	延利用時間	登録者数	延利用時間
緊急時見守り事業	12人	182時間	13人	116時間

(2) 事業運営での取組等

令和3年度の事業推進では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発動された状況下においても、利用者の状況や要望に合わせ、適切な感染予防対策を講じ、従前の支援実績を達成してきた。

実施事業のうち、視覚障害者等の移動に関し実施している「同行援護」については、対応できるヘルパーに限られることから、円滑な支援業務が図りにくい面がある。

このため、居宅介護で家事援助等のサービス提供に従事しているヘルパーに対し、平成30年度から同行援護研修費補助を開始した。令和元年度からは全ての資格取得に対象を拡大し、継続的にヘルパーの雇用に努めた。

また、令和3年度のヘルパー研修は、ヘルパー同士の交流の機会も含め参集型で実施し、次年度に向けた更新時研修では感染予防対策を踏まえ、参集型及びレポート提出型の併用で「障害者虐待対策及び障害者差別解消法」をテーマに実施した。

II 公益事業

1 居宅介護支援事業

要介護・要支援認定者のケアプランの作成にあたっては、本人や家族等の意向を踏まえ、心身の状況や環境等を考慮し、適切なサービスを利用し、自立した生活が送られるよう心がけている。月1回は利用者宅をモニタリングのために訪問し、心身の状態とサービス利用状況の確認を行っている。地域包括ケアシステム推進の視点からも、積極的に医療機関や介護サービス事業者等と連携している。

社協の居宅介護支援事業所として、介護保険外の行政サービスや民間サービスを活用するほか、ミニデイサービスやふれあいサロン、住民参加型在宅福祉サービス等、社協が関わる地域の社会資源を取り入れている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年度に続き要介護認定の期限延期措置が取られたことで、認定調査件数は減少した。また、ケアプラン作成件数については、利用者の死亡・入所等の終了ケースが多かったものの、包括支援センターや病院からの依頼が年度後半に増加した。感染予防対策を講じながら、利用者の意向を尊重しつつ、必要なサービスが維持されるよう調整や支援を行った。

(介護支援に係る取扱件数)

	3年度	2年度
給付管理件数(ケアプラン作成)	446件	426件
要介護認定調査件数	16件	21件

2 地域包括支援センター事業

「すべての区民を対象とした地域包括ケアシステムの地域拠点」として、南部地区の地域包括支援センターの運営(目黒区からの受託事業)を行った。

令和3年度も、研修会の主催や会議の実施にあたってはオンラインを活用するなど新型コロナウイルス感染症拡大に即した事業運営を行った。

また、地域における見守り、認知症の早期発見・対応への取組強化、高齢者虐待防止、地域における医療と介護の連携強化及び在宅療養支援総合窓口の充実、介護予防・日常生活支援総合事業の普及等を関係機関と連携を図りながら推進した。

(1) 総合相談・支援

地域で暮らす高齢者の介護、福祉、保健、医療などに関する相談に応じ、介護保険や保健福祉サービスなどにつなげた。出張相談会を月1回定期的に開催し、身近な所で地域住民が気軽に相談できる場を提供し、相談に応じた。また令和4年度から出張相談会の会場を2カ所に拡大するための調整や手続きを行った。

また、制度の狭間にある、高齢者とともに生活する家族等へのアプローチを意識しながら支援を行い、内容によりCSWと共に訪問した。相談件数の多い内容は介護保険、疾病・医療、在宅介護等となっている。

高齢者見守り訪問事業と高齢者見守りネットワークについては「見守りめぐね」との両輪で高齢者の見守り体制を強化した。また、見守り対象者は高齢者をはじめ、子ども、障害者、生活困窮者など、相談内容に応じて各関係機関へつなげた。

(総合相談件数)

	3年度	2年度
総合相談件数	9,664件	9,089件

(2) 権利擁護事業

高齢者の権利が侵害されないように関係機関と連携をとり相談に応じた。

虐待判定やその方針を決定する会議等を23回開催している。

令和4年2月に開催した高齢者虐待対応研修会では、新型コロナウイルス感染防止のためオンラインにより実施し、南部地区の介護サービス事業所をはじめ、民生児童委員等を対象とする講義を通じ、高齢者虐待の予防・早期発見、地域のネットワーク強化に関する意識啓発を行った。

(権利擁護に係る相談件数)

	3年度	2年度
虐待に関する相談件数	55件	134件
消費者被害に関する相談件数	10件	12件
成年後見・日常生活自立支援に関する相談件数	186件	179件

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント事業

目黒区が主催するケアマネジャー向け研修会等に講師等として参画・参加したほか、次表のとおり、地域のケアマネジャーを支援した。また、医療と介護の連携会議等に定期的に参加したほか、南部地区における認知症地域支援・在宅療養支援・居宅介護支援事業者の合同連絡会を広い会場で新型コロナウイルス対策を取り対面で開催し、地域における医療と福祉の連携・ネットワーク強化に努めた。

(ケアマネジャー支援状況)

	3年度	2年度
地域のケアマネジャーへの相談や助言	175件	284件
南部地区ケアマネジャー連絡会議	3回	1回
地域のケアマネジャーへの研修会等	3回 ①事例検討会 「認知症・家族支援」について(オンライン開催) ②講話 「民生児童委員とめぐろボランティア・区民活動センターとの相互理解と情報交換」について ③研修会 第一部 「CSWと顔の見える関係づくり」～地域連携強化～について 第二部	1回 ①コロナ禍における「介護保険制度の運用」について(オンライン開催)

	ケアマネサロン 「南部包括との顔の見える 関係づくり」について (オンライン開催)	
--	--	--

(4) 介護予防事業

ア 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援の実施

介護保険で要支援1・2と認定されたかた及び基本チェックリストによるサービス事業対象者についてのケアプラン作成を行った。

訪問型・通所型サービスのみの利用者は介護予防・生活支援サービス事業（総合事業）での利用となり、介護予防訪問看護・介護予防福祉用具等の利用者は介護予防給付での利用となっている。

(給付管理件数)

	3年度	2年度
ケアプラン作成数・直接	2,689件(1,185件)	2,788件(1,229件)
ケアプラン作成数・委託	1,633件(650件)	1,828件(659件)
合計	4,322件(1,835件)	4,616件(1,888件)

※()の件数は全体数の中で介護予防・日常生活支援総合事業の内訳件数である。

イ 一般介護予防事業

介護予防教室は、めぐろ区報及び区から郵送された案内で周知を図り、広く対象者を募る形となり、短期集中予防サービス以外は、区や教室運営事業者に申し込む方法となった。また、自主グループづくりをめざす「元気アップシニアの部活」と「脳に効く！ウオーキング」コースが新たな教室として開催され、体験・説明会等に包括支援センター職員も参加した。

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、教室開催の方法に変化があった。

(アセスメント実施件数)

	3年度	2年度
アセスメント実施件数	16件	5件

(5) 各種の受付・相談業務

介護保険や高齢福祉サービスの申請受付等を行うとともに、ひとり暮らし高齢者の安否確認、高齢福祉サービスの事業に対しての実態調査等を実施した。高齢者だけではなく、地域の住民すべてを対象とした身近な保健福祉の相談窓口として、障害者、生活困窮者、子ども、医療保険、年金等の相談を受け、担当所管に適切につなぐ役割を担った。総合相談支援件数が増加しており、相談支援内容では障害者、在宅・医療、経済的相談が多くなっている。なお、前年度から追加となった障害者有料道路通行料金割引及び都営交通無料パスに関する受付業務も、前年度の10件から26件と受付件数が増加している。

(各種の相談業務等)

	3年度	2年度
介護保険認定申請の受付等	2,707件	2,728件
高齢者・障害者の保健福祉サービスの受付等	776件	884件
保健福祉の総合相談支援	162件	113件

Ⅲ 収益事業

1 自動販売機管理事業

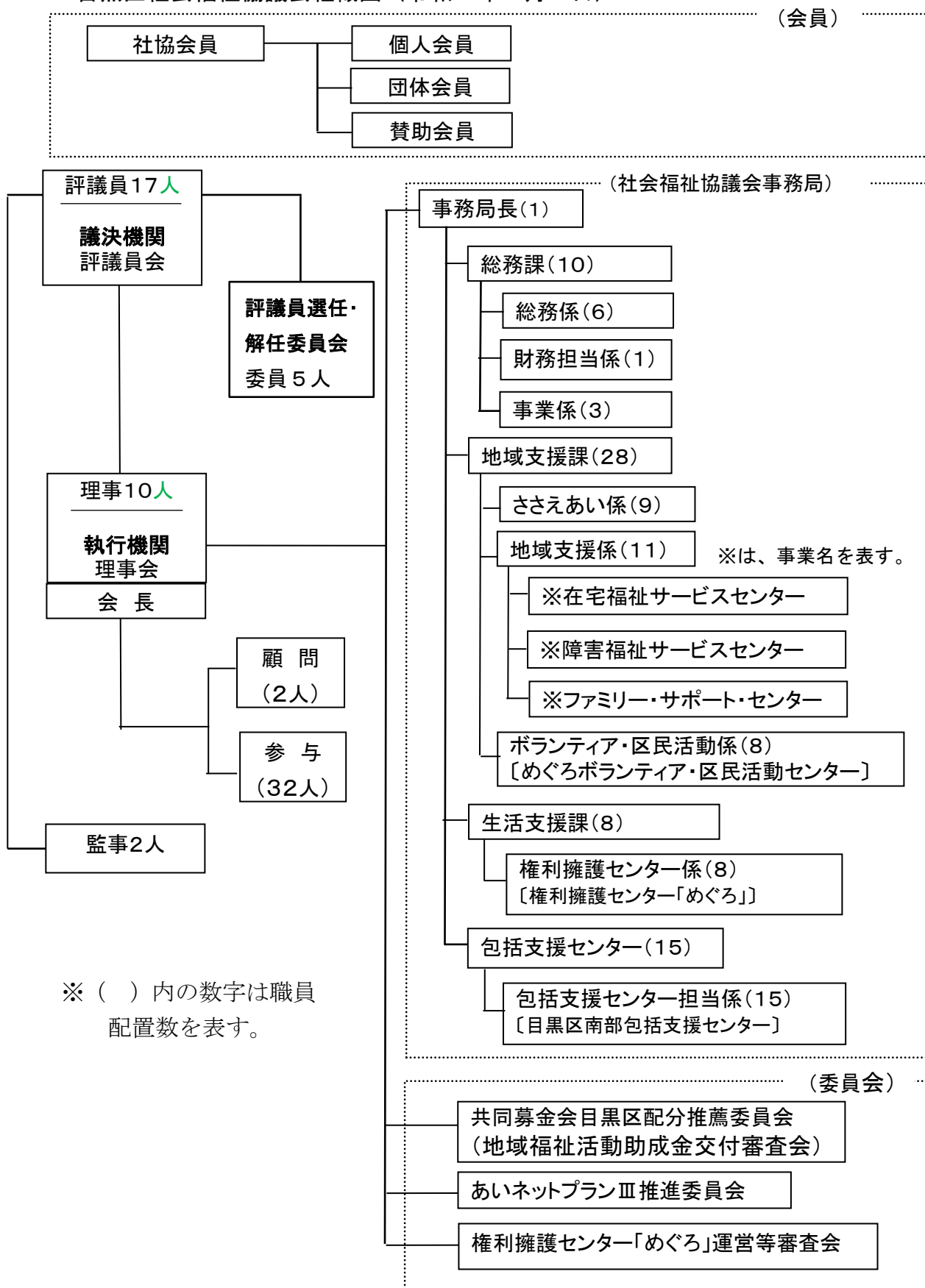
飲料の手数料収入は、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和2年度には若干及ばなかったものの、証明写真機手数料の大幅増もあり、手数料収入の総額は増となった。

(設置状況)

種類	設置場所	台数	手数料収入	
			3年度	2年度
証明写真機	目黒区総合庁舎(本館)	1	1,240,832円	874,606円
飲料	清掃事務所 清掃事業所	3	1,979,793円	1,924,086円
	碑文谷体育館	1		
	南部地区サービス事務所	1		
	菅刈住区センター	1		
	スマイルプラザ中央町	1		
	特別養護老人ホーム東山	2		
	目黒本町福祉工房	1		
合計		11	3,220,625円	2,798,692円

第4 組織図と職員配置

1 目黒区社会福祉協議会組織図（令和4年4月1日）



2 目黒区社会福祉協議会職員配置人員表（令和4年4月1日現在）

（単位：人）

課	係	常勤職員	契約職員	非常勤職員	計
総務課	総務係	5 (4)	0 (0)	2 (1)	11 (12)
	財務担当係	0 (1)	0 (0)	1 (1)	
	事業係	1 (2)	1 (1)	1 (2)	
地域支援課	ささえあい係	7 (-)	1 (-)	1 (-)	28 (22)
	地域支援係	1 (5)	6 (6)	4 (5)	
	ボランティア・区民活動係	3 (3)	4 (2)	1 (1)	
生活支援課	権利擁護センター係	6 (6)	1 (1)	1 (1)	8 (8)
包括支援センター	包括支援センター担当係	5 (4)	9 (10)	1 (1)	15 (15)
計		28 (25)	22 (20)	12 (12)	62 (57)
構成率		45.2% (43.9%)	35.5% (35.1%)	19.3% (21.0%)	100% (100%)

- ※1 事務局長は総務課に含む。
- ※2 管理職は各課の庶務担当係に含む。
- ※3 ()は、令和3年4月1日の実配置数。
- ※4 地域支援課にささえあい係を新設した。
- ※5 包括支援センターを複数担当係にした。